

問1

1. 建設業や造船業では原則として受注した工事別に原価を集計する。
2. 原価計算基準にいう「原価の本質」の定義から判断すれば、工事原価に販売費および一般管理費を含めたものがいわゆる原価性を有するものと考えられる。
3. 個別工事について実行予算を設定しておくことは、建設業の原価管理にとって重要な意義がある。
4. 見込み量産をしている鉄筋工場の原価計算では、素材とそれを加工する作業との区分が大切である。

A：個別原価計算 B:総合原価計算 C:総原価計算 D：形態別原価計算 E:機能別原価計算 F:事前原価計算

回答

1：A

2：C

3：F

4：B

問2

1. 建設業では原則として、受注した工事別に原価を集計する個別原価計算が採用される
2. 同じ素材を消費しても、直接工事の鉄筋工事で使う場合と共通仮設工事で使う場合とでは、しっかり区別して整理しなければならない。
3. 本社の一般管理費等を回収するためには、おおまかにいえば、その規模まで建設工事の総利益を上昇させるだけの工事を受注しなければならない。
4. 外注費であっても、本来は材工共（材料調達を含む外注）の場合、労務外注の場合などを個別しておくことが望ましい。

A:発生形態別分類 B:作業機能別分類 C:計算対象との関連性分類 D:操業度との関連性分類

回答

1 : C

2 : B

3 : D

4 : A

問3

1. 建築工事の入札に参加するため、その予定価格用の工事原価を積算する
2. 建設業施工規則に定める完成工事原価報告書を作成するための工事原価を集計する
3. 受注生産の企業では、原則として受注別に原価を集計する番号を設定して番号別の原価を集計する
4. 特定の業務について能率を測定する尺度となるように、事前の目標原価を計算しておく
5. 建設資材を量産している企業では、原価計算期間において発生した原価をそれに応じた生産量で割って製品の単位原価を計算する

A：標準原価計算 B:総合原価計算 C:個別原価計算 D：形態別原価計算 E:工種別原価計算

回答

1：E

2：D

3：C

4：A

5：B

問4

1. 一般的な建設工事においては、材料費は受注請負金額に比例的に発生するが、機会等経費は、保有固定資産の減価償却費のように会計期間において一定額が固定的に発生する。
2. 特定の請負工事の建設のためにのみ正常的に発生する費用は、すべて工事直接費である
3. 実行予算を作成するに際しては、工事種類（工種）別に原価を区分して計算する方法が多用されている
4. 建設業法施工規則における完成工事原価報告書では、現場管理に係る従業員給与等を、経費の「人件費」として明示することとしている

A:発生形態別分類 B:作業機能別分類 C:計算対象との関連性分類 D:操業度との関連性分類

回答

1 : D

2 : C

3 : B

4 : A

問5

1. 本社役員と関係会社幹部とは定例の業績報告会を開催している
2. 現在の重機による施工では、一定のやむをえざる作業層が発生する
3. 受注工事に関して道路使用許可を申請しなければならない
4. 民間会社の本社社屋建設を受注するために、そのマスタープランを作成しながらプレゼンテーションを進めている

A:原価性の本質 B:非原価項目

回答

1 : A

2 : A

3 : A

4 : A

問6

1. 工事現場で火災事故が発生しその復旧に係る支出
2. 特定工事のための仮設資材センターの管理に係る支出
3. 外注代金の支払いための短期借入金に係る利子
4. 支店設置のための登記関係諸費

A.工事原価として処理する

B.原価計算上の原価であるが、一般管理費として処理する

C.非原価として処理する

回答

1 : C

2 : A

3 : C

4 : B

問7

1. 工事原価（プロダクト・コスト）に販売費や一般管理費などの営業費（ピリオド・コスト）まで含めて給与計算としての原価計算を行おうとするものである
2. 建設業は典型的な請負産業である。よって個々の工事別に原価を集計する必要がある
3. 工事原価は、材料費、労務費、外注費、経費に区分され、制度的な財務諸表作成に寄与する
4. 原価管理のために能率水準としての目標を設定する

A:形態別原価計算 B:総原価計算 C:総合原価計算 D:標準原価計算 E:個別原価計算

回答

1 : B

2 : E

3 : A

4 : D

問8

1. 一般の受注促進のために広告宣伝に関する支出
2. 現場作業員の募集に関する支出
3. 現座資材の火災による経済価値の犠牲
4. 現場事務所の電話料金

A.工事原価として処理する

B.総原価に含まれるが、期間費用として処理する

C.非原価として処理する

回答

1 : B

2 : A

3 : C

4 : A



問9

1. 完成工事原価報告書を作成するため、各工事原価の材料費、労務費、外注費、経費の集計を行う。
2. 作業効率の向上を目的として、能率を測定するための尺度として、事前の目標原価を設定する
3. 建設現場の足場用仮設材料を量産している工場では、原価計算期間に発生した原価を同会計期間の生産量で割って、製品の単位原価を計算する
4. 受注生産を行っている企業では、受注製品ごとに原価を集計するための指図書番号を設け、受注製品ごとの原価を集計する

A:個別原価計算 B:形態別原価計算 C:総合原価計算 D:標準原価計算 E:総原価計算

回答

1 : B

2 : D

3 : C

4 : A